

第2回部会ワークショップ結果の 取りまとめについて

第2回しごとづくり部会の概要

<概要>

日時：令和元年8月29日（木）14：30～17：00

会場：市民プラザ4会議室

WS参加者：12団体19人

部会長：上越商工会議所 総務課庶務係長

<ワークショップの様子>



<部会長コメント>

- ・情報発信は3部会全ての課題。
- ・発信の仕方には工夫が必要。総花的ではなく、とがったものに。
- ・盛り上げていくためには横のつながりや連携が重要である。
- ・足元から連携・協働をしていくためには、まず他の団体がどんなことをやっているのかを知ることが必要。

<出席者名簿>

番号	所属団体	役職
1	上越商工会議所	事務局参事
2	えちご上越農業協同組合	営農部次長
3	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター 北陸研究拠点	農業技術コミュニケーター
4	上越信用金庫	執行役員 取引先支援部 部長
5	株式会社大光銀行	高田支店長
6	株式会社大光銀行	地域産業支援部 副部長
7	株式会社北越銀行高田支店	副支店長
8	新潟県信用組合	高田支店長
9	日本政策金融公庫高田支店	支店長兼事業統括
10	株式会社オアシス	取締役 副社長
11	上越ワーキングネットワーク	副代表
12	上越地域活性化機構	事務局
13	上越市	福祉課 課長
14	上越市	産業政策課 課長
15	上越市	産業立地課 副課長
16	上越市	上越ものづくり振興センター 所長
17	上越市	観光交流推進課 副課長
18	上越市	農政課 副課長
19	上越市	農村振興課 課長

まとめシートの主な意見(しごとづくり部会)

<他団体の取組を聞いて感じたこと>

- ・高卒採用が少なく、地元の大きな就職先がなくなった。(特に女性)
- ・30代、40代の親世代が地元の良さを子供に伝え、地元に残るか帰ってくるような意識付けをすることが必要。
- ・インバウンド受け入れによる観光客への農産物販売の拡大。
- ・連携については、いろいろな可能性を感じた。今後も情報交換を希望。
- ・ジェネレーションZ世代(※)の雇用確保。(首都圏への人材流出防止)
- ・市内のIT関連企業や、ソフト開発企業の情報発信、見える化の取組強化。
- ・情報発信の方法を工夫する。ただ、ホームページに掲載するだけではダメ。
- ・若者に向けて企業を知ってもらう。(上越市内にどんな企業があるか知らない。)
- ・若い人に対してのPRが大切だと思っている企業が多いので仕組み、仕掛け作りをネットワーク化。情報共有化できると良い。
- ・異業種との連携の可能性が大いにあることをあらためて実感。
- ・これからのグローバルな時代は、市外・県外のみならず海外との交流がさらに拡大する。海外と対峙する時には、かたまり、ユニットとして対応する必要性がある。
- ・課題(高齢化、人手不足)が同じということは、連携しやすい。



情報発信に関する課題、連携の可能性と引き続きの情報共有の必要性に関する意見が出された

<他団体と連携できる点(代表的なもの)>

【上越商工会議所】

- ・ORAJAさんとITIによる地元企業のPR作成・紹介。
- ・金融機関との創業・事業継承の支援・補助、商談会。

【えちご上越農業協同組合】

- ・(株)オアシス…上越妙高駅内での農業物販売。
- ・上越市観光交流推進課…インバウンド受入体勢の相談、観光PR強化。

【農研機構 中央農研】

- ・農福連携について、提案および技術面での支援。(上越ワーキングネットワーク)
- ・新規就農者に対する技術的支援。(上越市農政課)

【上越信用金庫】

- ・日本政策金融公庫との連携強化＝創業、プロジェクト案件、アグリ等。

【大光銀行】

- ・ビジネスマッチング、商談会等の販路開拓での連携。“メイド・イン上越”のブランドを県外に。

【北越銀行】

- ・上越ものづくり振興センター…「メイド・イン上越」マッチング、関東地方、県内他地域へのPR

【新潟県信用組合】

- ・取引企業の人手不足対策として紹介(ワーキングネットワーク)

(※)2000年(もしくは1990年代後半)から2010年の間に生まれ、生まれた時からインターネットが当たり前のよう存在する「デジタルネイティブ」な世代。

第2回結婚・出産・子育て部会の概要

<概要>

日 時：令和元年8月27日（火）14：30～17：00

会 場：上越文化会館4階 大会議室

WS参加者：8団体16人

部 会 長：新潟県立看護大学 副学長

<当日の様子>



<部会長コメント>

- ・他領域の人との意見交換をする貴重な機会であったと思う。
- ・意見交換から感じた新たな感覚や知り得た知識を今後、上越市が生き生きしたまちになっていくためにいかしてほしい。
- ・子育て支援は、「就労支援」や「生活の保障」などいろいろな要素が絡まっている。ぜひ、本日の意見や感想を今後の具体案としてほしい。

<出席者名簿>

番号	所属団体	役職・氏名(敬称略)
1	新潟県上越地域振興局	健康福祉環境部地域保健課 課長代理
2	公立大学法人新潟県立看護大学	教務学生課長
3	上越信用金庫	大学前支店 支店長
4	上越信用金庫	総務部 次長
5	平安セレモニー株式会社	主任
6	上越助産師会	会長
7	マミーズ・ネット	理事長
8	マミーズ・ネット	理事
9	街なか映画館再生委員会	委員長
10	上越市	共生まちづくり課 男女共同参画センター長
11	上越市	健康づくり推進課 課長
12	上越市	保育課 副課長
13	上越市	こども課 副課長
14	上越市	産業政策課 課長
15	上越市	教育総務課 課長
16	上越市	学校教育課 副課長

まとめシートの主な意見(結婚・出産・子育て部会)

<他団体の取組を聞いて感じたこと>

- ・子育て関係のサポートが充実しており、情報発信の仕方によっては可能性がある。
- ・他県から上越市に居住してる人へのサポートが必要。
- ・いろいろな施策をしているが、市民にあまり知られていない。
- ・女性の職場復帰のためにも、男性の子育て参加が必要。
- ・医療費の補助等、出産・子育てに関する情報をもっと積極的にした方が良い。(若い人向けだけではなく、その親の世代に向けても)
- ・同じ目標のもと、関係団体が情報を共有し、話し合う機会が大切。
- ・切れ目のない支援として、上越にUターンをしてもらうためにも高校生とつながりをもてる機会を探していきたい。
- ・0~4か月の産後すぐの時の母親への支援を、より強化できる方法がないか。
- ・企業とつながりをもてる方法。(ワークライフバランス、マタニティ期からの支援)
- ・子育て支援についての制度はあるものの、制度を利用する人が少ないのが実態。
- ・自身の団体の売りや特徴が何かを明確に伝えられることはネットワークを作っていくためには重要。
- ・妊娠、出産前の準備段階の人にも子育て支援の情報を知ってもらうことは大事ではないか。
- ・今は昔と違って子育て世帯が両親と住まないため、一層の取組が必要。



情報発信に関する課題、企業や子育て世代、高校生とのつながりに関する意見が出された

<他団体と連携できる点(代表的なもの)>

【上越地域振興局健康福祉環境部】

- ・上越信用金庫…UIターンの方への情報提供
- ・平安セレモニー(株)…生涯を通じた女性の健康支援事業、男性の料理教室(事業のタイアップ)
- ・マミーズネット…相談者支援、ボランティア

【上越信用金庫】

- ・行政が行っていることをPRしていきたい。
- ・男女共同参画の面で、出産・子育て・ワークライフバランス等の出前講座を当金庫の外部団体と連携してできるのではないか。

【平安セレモニー】

- ・子供向けイベントの情報発信(上越市健康づくり推進課)
- ・出産前からの情報提供(マミーズネット)
- ・婚活イベントの連携-補助
参加者費用のハードルを下げる⇒市との連携

【マミーズネット】

- ・0,1,2おやこフェスに子育て応援している企業・団体として参画してもらおう。(助産師会、平安セレモニー、他企業団体)
- ・産後の支援が必要そうな人に産後うつ予防として子育て応援ひろば「ふう」を紹介してもらおう。(助産師会)

【高田世界館】

- ・中高生への夏の選定図書のような映画に関する感想文などの課題(教育委員会)

第2回まちの活性化部会の概要

<概要>

日時：元年9月6日（金）14：30～17：00

会場：上越文化会館4階 大会議室

WS参加者：22団体31人

部会長：上越教育大学 准教授

<ワークショップの様子>



<部会長コメント>

- ・初めて話す団体と意見交換をして、この団体とはこういう連携が出来そうだというアイデアが出てくると良かったのではないかと思います。
- ・第2期総合戦略のまちの活性化分野の基本目標の「時代に合った地域」が何なのかというのは難しいが、団体間で新しいものを企画するなど連携を活発化していく中で見えてくる。ぜひ、積極的に連携して事業を展開してほしい。

<出席者名簿>

番号	所属団体	役職・氏名(敬称略)
1	えちご上越農業協同組合	営農部次長
2	新潟県上越地域振興局	企画振興部地域振興課 地域振興専門員
3	上越信用金庫	営業統括部 部長
4	上越信用金庫	総合企画部 副部長
5	金谷北地区農村元気会	会長
6	金谷北地区農村元気会	副会長
7	金谷北地区農村元気会	上越バイシクル協会会長
8	食の工房ネットワーク	事務局長
9	株式会社大光銀行	地域産業支援部 調査役
10	新潟県信用組合	春日山支店長
11	日本政策金融公庫高田支店	支店長兼事業統括
12	東京海上日動火災保険上越支社	副主任
13	上越観光コンベンション協会	営業課長
14	上越観光案内協会	会長
15	かみえちご山里ファン倶楽部	事務局長
16	高田警女の文化を保存・発信する会	理事・事務局長
17	お馬出しプロジェクト	事務局
18	越後高田・雁木ねっとわーく まちづくり市民大学OB会	幹事
19	くびきのお宝のこす会	会長
20	南本町三丁目まちづくり協議会	事務局
21	えちごトキめき鉄道株式会社	経営企画主任
22	JR東日本鉄道OB会直江津支部	副支部長
23	株式会社上越タイムス	常務取締役
24	上越市	交通政策課 課長
25	上越市	自治・地域振興課 課長
26	上越市	共生まちづくり課 課長
27	上越市	文化振興課 課長
28	上越市	高齢者支援課 係長
29	上越市	建築住宅課 課長
30	上越市	社会教育課 係長
31	上越市	都市整備課 課長

まとめシートの主な意見(まちの活性化部会)

<他団体の取組を聞いて感じたこと>

- ・どの団体や組織も高齢化、担い手不足、リーダー不足の課題がある。
- ・中山間地域では、空き家が増え、集落機能の維持が課題となっているが、まちなかでも同じ課題を抱えている。まとめ役となれる人材が不足している。
- ・自分自身で知らなかった団体や活動内容が聞けて良かった。
- ・共通の課題がある人手不足、人口減少への対策として創業支援、事業承継、M&A、経営改善支援により職場確保に貢献したい。
- ・それぞれの団体ごとに特長のある事業の取り組みを行っており、お互いに情報を共有し、連携することで1団体ではできない事業も可能になって行くと感じた。
- ・知らないことが多い。情報発信が弱い。アイデアがあってもやるかやらないかは別。
- ・13区の見どころ等、観光に関わるものを紹介することも必要と感じた。
- ・SNSでの発信。発信してもらうようにすることの重要性。
- ・SNSなどによる不特定多数とのつながりもいいが、縁ある特定少数との強いつながりづくりの重要性を感じた。同時に地域内交流の重要性も感じた。
- ・移住者の交流会を計画しているとの話を聞くことができた。連携できることがないか、引き続き情報交換していきたい。



情報発信に関する課題、情報交換や地域内交流による
連携の必要性に関する意見が出された

<他団体と連携できる点(代表的なもの)>

【上越地域振興局】

- ・えちごトキめき鉄道とマイレール推進事業。

【上越信用金庫】

- ・東京海上日動火災様との提携を検討したい。
- ・ソーシャルビジネス事業への金融機関の本業を生かした支援や連携。

【食の工房ネットワーク】

- ・高齢者支援課のサロンに参加して、地域の食文化の聞き取りがしたい。

【東京海上日動】

- ・同じ金融機関団体との連携(保険+価値提供)
- ・市民との接点が近い団体との連携(困りごとに対して、解決できることがある可能性が見えた)
- ・上越市外への発信(当社全国ネットワークあり。物産展などの開催も新潟市では実施済)

【上越観光案内協会】

- ・金谷北地区元気会の活動を側面から支援してきたが、より深くより継続的に取り組みたい。

【かみえちご山里ファン倶楽部】

- ・金谷北地区農村元気会…古道整備、情報共有し発信を増やす。
- ・銀行の取組(地域貢献活動)と連携出来ないか。
- ・観光案内協会…フィールドの提供、ガイド、宿などのコーディネート
- ・えちごトキめき鉄道…電車とバスを合わせたツアー

【まちづくり市民大学OB会】

- ・上越市自治・地域振興課…移住促進、移住者交流会、空き家バンク
- ・上越市共生まちづくり課…人材育成(若者、女性を含めて)、女性大学構想、若者会議構想